

RS-232Cマルチ通信システム「KS LAN」 KS-M100/KS-C100

RS-232Cを使った簡単なLAN通信を可能にする、アドレス制御機能付き通信ユニット！

KS-M100

KS LANユニット(親機)(ホストパソコン接続ユニット、PC-9801用サンプルソフト付属、AC電源回路内蔵)
本体価格:38,000円(税別)

KS-C100

KS LANユニット(子機)(ターミナル機器接続ユニット、AC電源回路内蔵)
本体価格:29,000円(税別)

PARA BOX(5P-25P)

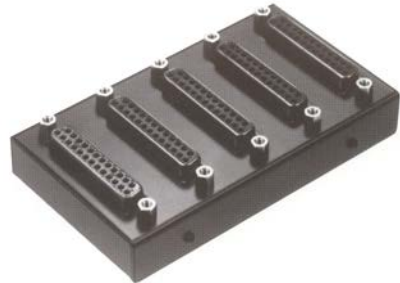
信号分岐用コネクタボックス
本体価格:10,000円(税別)

KS-C100 ▼

KS-M100 ►



PARA BOX ►



オプション
ケーブル

CBL15(PC-9801→KS-M100/C100接続用RS-232Cケーブル、1m).....	6,500 円
CBL15N(PC-9801ノートハーフ 14ピン→KS-M100/C100接続用RS-232Cケーブル、1m).....	13,000 円
CBL16(IBM9ピン機器→KS-M100/C100接続用RS-232Cケーブル、1m).....	8,500 円
CBL17(IBM25ピン機器→KS-M100/C100接続用RS-232Cケーブル、1m).....	8,500 円
CBL44(KS-M100/C100→PARA BOX接続用ケーブル、長さは指定による).....	特注対応
CBL44P(PARA BOX→PARA BOX接続用ケーブル、長さは指定による).....	特注対応
CBL43A(KS-M100→C100の直接接続用テストケーブル15P→15P、長さは指定による).....	特注対応
取り付け金具(据え付け固定用、2枚1組).....	1,500 円

【KS-LANの特長】

KS-LAN ネットワークでは、ホストとなるパソコンが1台あれば、端末側すべての機器とマルチ接続でき、その中で特定の1台と1:1の全二重シリアル通信を行うことを可能にします。

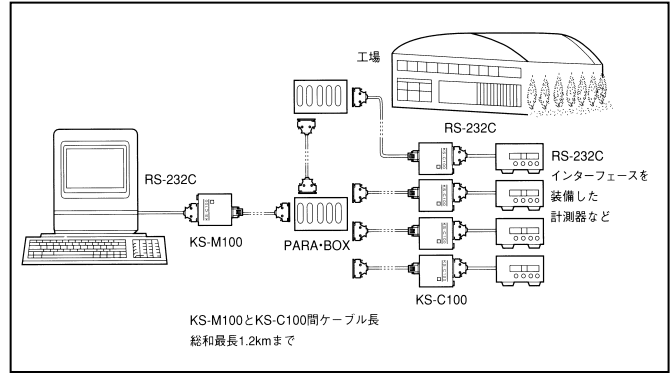
KS-LANユニットは、親機(KS-M100)をホスト側に接続し、コネクタボックス(PARA BOX)で分岐した子機(KS-C100)を端末側に接続します。親機と子機をつなぐケーブルのトータル長さは1.2kmまで、子機32台までが接続が可能です。ホスト(親機)により指定されたID番号を持つ子機1台にのみ回線を開きますので、他の子機とは信号が衝突することなく、マルチドロップのネットワークが簡単に実現できます。

【仕様】

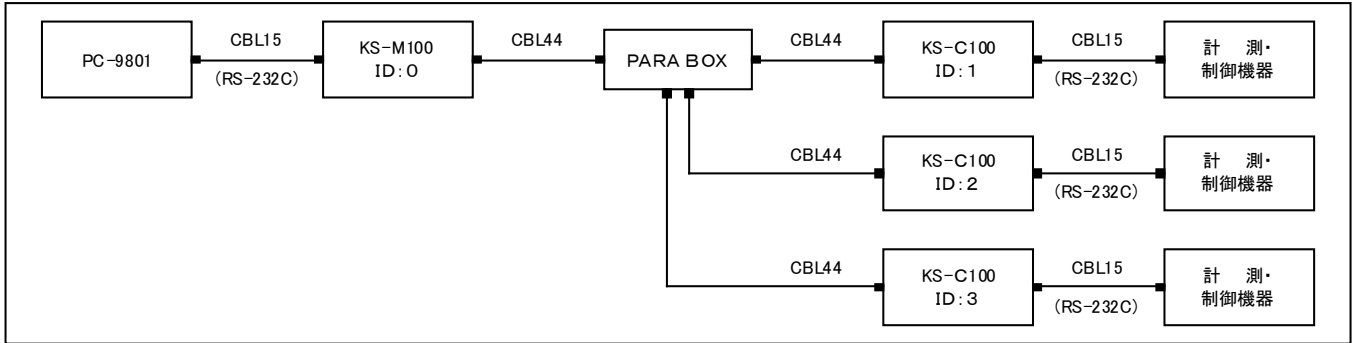
型名		KS-M100(親機)/KS-C100(子機)
RS-232C インターフェース	最大伝送速度	19.2kbps
	最大伝送距離	15m
	出力	3k Ω 負荷にて $\pm 5V$ 以上
	入力	入力抵抗3k Ω 以上、レシーバ感度 $\pm 3V$ 以上
マルチライン側 インターフェース	通信仕様	システムサコム オリジナル仕様 通信形態 1:1(ポイントツウポイント) 接続形態 1:32(マルチドロップ)
	最大伝送速度	19.2kbps(RS-232C側制約による)
	最大伝送距離	1.2km
	出力	平衡型 100 Ω 負荷にて $\pm 2V$ 以上
	入力	平衡型 入力抵抗100 Ω 、レシーバ感度 $\pm 200mV$ 以上
	接続ユニット数	KS-M100 1台に対してKS-C100 32台まで接続可
電源	AC100V(50/60Hz)、5W以下	
外形寸法	100(W) \times 141(D) \times 30(H)mm(突起部含まず)	
重量	約 500g	

■応用例

測定器や制御機器は現場に設置されますが、これをコントロールするホストコンピュータは管制室やオフィスに配置する場合がほとんどです。測定器、制御機器にRS-232C入出力が装備されているならばKS-LANネットワークでマルチドロップ接続し、管制室のコンピュータから直接制御することが可能です。

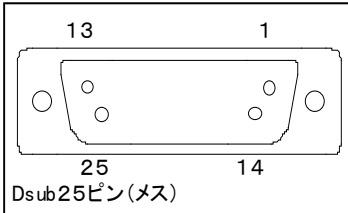


■接続例



【KS-M100/KS-C100のピンアサイン】

●KS-M100のRS-232C側

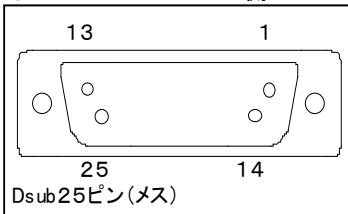


※ネジ M2.6

ピンNo.	名称	信号の方向	信号の役割および処理
1	FG フレームグラウンド		フレームに接続
2	TxD 送信データ	入 力	RS-232CのTxDからデータを受信
3	RxD 受信データ	出 力	マルチラインからのデータをRS-232CのRxDへ送信
4	RTS 送信要求	入 力	RS-232CのRTSから制御信号を受信
5	CTS 送信可	出 力	マルチラインからの制御信号をRS-232CのCTSへ送信
6	DSR データセットレディ	出 力	RTSに入力された信号を折り返し、RS-232CのDSRへ送信
7	SG シグナルグラウンド		GNDに接続
20	DTR データ端末レディ	入 力	ID番号を指示するためのアドレスモードの制御を行う

※ RS-232C側はDsub25ピン(メス)になります。各機器のRS-232Cポートと接続します。

●KS-C100のRS-232C側

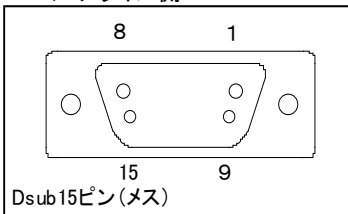


※ネジ M2.6

ピンNo.	名称	信号の方向	信号の役割および処理
1	FG フレームグラウンド		フレームに接続
2	TxD 送信データ	入 力	RS-232CのTxDからデータを受信
3	RxD 受信データ	出 力	マルチラインからのデータをRS-232CのRxDへ送信
4	RTS 送信要求	入 力	RS-232CのRTSから制御信号を受信
5	CTS 送信可	出 力	マルチラインからの制御信号をRS-232CのCTSへ送信
7	SG シグナルグラウンド		GNDに接続

※ RS-232C側はDsub25ピン(メス)になります。各機器のRS-232Cポートと接続します。

●KS-M100/KS-C100のマルチライン側



※ネジ M2.6

ピンNo.	名称	信号の方向	信号の役割および処理
1	FG フレームグラウンド	—	フレームに接続
2	TxD+ 送信データホット	出 力	RS-232CのTxDからのデータを送信(ホット)
3	RTS+ 送信要求ホット	出 力	RS-232CのRTSから制御信号を送信(ホット)
4	RxD+ 受信データホット	入 力	マルチラインからのデータをRS-232CのRxDへ受信(ホット)
5	CTS+ 送信可ホット	入 力	マルチラインからの制御信号をRS-232CのCTSへ受信(ホット)
6	DTR+ データ端末レディホット	出 力	ID番号を指示するためのアドレスモードの制御を行う(ホット)
8	SG シグナルグラウンド	—	GNDに接続
9	TxD- 送信データコールド	出 力	RS-232CのTxDからのデータを送信(コールド)
10	RTS- 送信要求コールド	出 力	RS-232CのRTSから制御信号を送信(コールド)
11	RxD- 受信データコールド	入 力	マルチラインからのデータをRS-232CのRxDへ受信(コールド)
12	CTS- 送信可コールド	入 力	マルチラインからの制御信号をRS-232CのCTSへ受信(コールド)
13	DTR- データ端末レディコールド	出 力	ID番号を指示するためのアドレスモードの制御を行う(コールド)

※ マルチライン側はDsub15ピン(メス)になります。

※ KS-M100の信号方向を表記しています。KS-C100は入出力の関係が逆になります。

Dr.サコムの教養講座

「KS-LANネットワークとは」
KS-LANのマルチラインインターフェースについて簡単な説明解説をしています。